




審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2809 号	氏名	龍 泰彦
審 査 担 当 者	主 査	田 中 永 一 郎	(印) 
	副主査	緒 方 裕	(印) 
	副主査	田 中 芳 明	(印) 
<p>主論文題目 : Fecoflowmetric Analysis of Anorectal Motor Function in Postoperative Anal Preserving Surgery Patients with Low Rectal Cancer Comparison with the Wexner Score and Anorectal Manometry.</p> <p>(下部直腸癌肛門温存手術患者における術後直腸肛門機能の検討 : Wexner スコアおよび肛門直腸内圧検査と比較したフェコフロメトリー分析)</p>			

審査結果の要旨 (意見)

本研究では、久留米大学病院で下部直腸癌の診断で肛門温存手術を施行された 53 名を対象にして、肛門温存手術後の排便機能について臨床アンケート、および Wexner スコアから自他覚的評価と直腸肛門内圧検査、および fecoflowmetry による直腸内圧、排出流量など客観的パラメータとを比較検討した。Fecoflowmetry のパラメータは臨床アンケート、Wexner スコアおよび肛門括約筋の温存手術と有意な相関を認めたが、直腸肛門内圧検査のパラメータは、これらとの間に有意な相関がなかった。従って、fecoflowmetry は排便機能を客観的に評価し、直腸肛門内圧検査よりも優れていることを示唆した意義ある論文であり、学位論文に相当と判断する。

論文要旨

下部直腸癌手術における肛門温存手術後において排便機能障害を呈することが多いが、この程度を客観的に評価することは難しいのが現状である。直腸肛門内圧検査等の従来の検査法のみでは臨床評価との間に相違を認めることもあり、排便機能の評価には十分と言えない可能性があり、より客観的な排便機能評価を目指す必要性がある。本研究の目的は肛門温存手術後の排便機能に関して Wexner スコア、臨床アンケートや直腸肛門内圧検査と比較し Fecoflowmetry による客観的評価を行い検討することである。久留米大学病院で下部直腸癌患者で肛門温存手術を施行された 53 人で検討した。Fecoflowmetry、直腸肛門内圧検査が Wexner スコア、臨床アンケートとの関係、手術方法別 (肛門括約筋を温存手術か切除するか) の関係を比較検討した。Fecoflowmetry では臨床アンケート、Wexner スコアおよび手術方法別で有意な関係を認めた。しかしながら内圧検査では臨床アンケート、Wexner スコアおよび手術方法別と有意な関係は認めなかった。Fecoflowmetry は内圧検査より排便機能をより客観的に評価し内圧検査より優れている可能性が示唆された。